

2024 年度コンテスト総括

秋の陣と、この1年を振り返る、またまたお約束の紙面のムダ使いで
ほんとお〜に毎度すいませんσ^_^;

JM1LZT 富山俊一

ALL JA 無差別級全国 3 位
M クラス全国 2 位
東京コンテスト 都内 1 位
6m and down 全国 4 位(JA1ZGX)
フィールドデー 全国 2 位
全市全郡 無差別級全国 2 位
M クラス全国 1 位
東京 CW コンテスト 都内 1 位
多摩川コンテスト 流域外 2 位

例年通り、全て 50MHz で、6D と多摩川だけは電信・電話、その他は電信でした。

昨年この時期、前年同様「今度こそオール 1 を目指します」かなんか書いといて、結果はご覧の通り f_^;

フィールドデーと多摩川は、正直、勝つ気マンマンで臨んだので、ショックは結構大きかったかもしれません。

ALL JA は 2021 年全国着外、2022 年 M クラス全国 3 位、2023,24 年と M クラス全国 2 位。もう次の結果は、やはりひとつしか考えられません。

毎年個人参戦している 6 つのコンテストのうち、唯一未勝利のコンテスト。さて、今年はどうなるか？

東京コンテストは、2年連続3度目の優勝でした。以前も書きましたが、今回は JH1LTR 古池さんの絶大なサポートあっての結果で、シングルオペ部門とは言え、マルチオペで「チームとして」勝った感満載です(もちろん、オペレーションはルールに則って全て一人でやりましたが)

古池さん、本当にありがとうございました^^

東京 CW は、初めて浅間尾根を使っての「ホーム参戦」。土曜日から場所取りと設営を済ませ、万全の体制で臨めた結果です。

過去3年連続同じ場所(八王子市内の小高い場所)から参戦した東京 CW ですが、今年も同じ場所からエントリーして勝つことによって場所のおかげではなく、ウデなのだと証明したいところでしたが、やはり「ホームグラウンド」からの参戦は何かと有利。

土曜日の日中に設営し、日曜日の朝6時からオンエア可能というのは、圧倒的にやりやすかったのは言うまでもありません。



東京 CW@初の浅間尾根

多摩川コンテストは唯一 2018 年の無線再開から参戦し続けていて、早いもので今回で 7 回目となりました。

過去の成績は優勝 2 回、2 位回、6 位 1 回ですが、コンテスト活動再開のきっかけになったコンテストとして、ある意味 JARL のメジャーコンテストより拘りがあります。マルチオペの 6m and down を除けば、電信・電話部門にエントリーしている唯一のコンテストである上、50MHz だけのコンテストということで、コンテスターとして、6m マンとしての「総合力」を問われているように思い、やはり結果には強い思い入れがあります。



毎度の勝利へのゲン担ぎ 多摩川コンテスト@浅間尾根

結局、東京コンテスト、東京 CW、全市全郡で優勝出来たので、昨年同様年間 3 勝。

フィールドデーは、2 エリアからエントリーした方にマルチの差で惜敗。局数の 1 エリア、マルチの 2 エリアの「伝統」をどうすればひっくり返せるのか、決定的な解決策は見えていません。自分で勝手に「1 エリアシバリ」を課しているのが、より多くの局数を稼ぐことぐらいしか 2 エリアに勝つ術はなさそうです^^;

「C50 の神」が唯一エントリーしてこない JARL コンテストとは言え、もう一度「上に誰もいない結果」を手に来る日ははたして来るのでしょうか？

全市全郡は青息吐息の 4 連覇。もちろんメチャクチャ嬉しいわけですが、やはり無差別級にあと一人だけ上の方がいらっしゃると言うのが引っかかってはいます。「無差別級」で 50W の移動局が優勝を狙うこと自体無謀なのは承知してますが、それでもなんとかしてみたい。今回の成果としては、スコア的にこれまでで最も「神」に近づけたってことでしょうか。まあ近づけただけで、追いついたわけでも、ましてや追い越したわけでもありませんが f_^;



ACAG2024@日光 with JO1CRA

＜昨年度の反省点＞

局数に偏りがちなところを、マルチ探しに時間を割くつもりだった→結局今年度もイマイチ徹しきれていない。局数をやれば自動的にマルチが付いてくる全市全郡だけは連覇してるのが証左。ヘタクソ、バレバレ^^;

コンテスト毎のアンテナの組み合わせの適正化→「垂直偏波対策」として、夏以降 5/8 λ GP を導入。一定の成果があったと思われる。
TNX to JA1RIZ。

設営、撤収の時間短縮→相変わらず改善の余地あり 目標は設営 2 時間、撤収 1 時間(現状は目標にプラス 1 時間以上) 加齢による体力低下で、むしろ時間がかかるようになってきている? (^);

携帯不通地域で携帯を使えるようにする→レンタル Wi-Fi の機種を吟味し、全ての運用地で携帯が使えた。以前浅間尾根はソフトバンクが使えるはずなのに、Wi-Fi が使えなかったことがあったが、今年度は大丈夫に。やはり RBN が使えるか使えないかは現代のコンテストでは決定的。今後 5G が主流になっていくであろう携帯インフラ、山奥をちゃんとカバーしてくれるのか、ちょっと心配。

いずれのコンテストでも、またまた 240 のみなさんに絶大なご支援、ご声援をいただき、本当にありがとうございました。

昨年もご紹介しましたが、JARL のコンテストでは、ログ審査の結果(減点等したもの)がログチェックレポートという形で参加者に送られてきます。その中に「ユニークコール」という項目があります。要は「あなたのログにだけ出てきたコールサインはこれよ」ってやつです。いわゆる「援助交信、友情交信」の分です。今回の全市全郡では 14 交信にも及び、「日ごろコンテストなんかやってないけど、一丁 LZT を助け

てやるか」と行動してくれた方々です。リストを見てみると、月曜のコールコールのログにあるコールサインだらけ。

本当にありがとうございます。

今年こそ「オール 1」目指してがんばりたいと思ってますので、これからも、よろしく願いいたします。

番外編

今年の 2 月 11 日の関東 UHF コンテスト、私は参戦していませんでしたが、タップリと楽しめちゃいました。

みなさんご存知の JH1LTR 古池さんが千葉県鹿野山から 430MHz の CW 部門にガチ参戦。期せずして、JA1ZCX(6m and down のお友だちたち)で毎年苦楽を共にしている JO1CRA(日光)と JM1WBP(埼玉)も同部門に参戦。

私的には「ガチ身内対決」を横でハラハラ、ドキドキ、ワクワクしながら 6 時間堪能させてもらいました。

まだ終わった直後で正式な結果発表はかなり先ですが、現状僅差で CRA, LTR,WBP の順にならんでいます。もちろん彼らより高得点を叩き出した方もいるとは思いますが、「身内表彰台独占」ってことにならないかなあと夢想しているところです。

スポーツの世界では、「やるスポーツ」と「見るスポーツ」がありますが、どうやら無線のコンテストにもその両方があるそうだと気づかされた、今回の関東 UHF でした ^^